

## 【授業の構成】 教室は毎回A V 教室です

第1講	10/4	教育と学習の理論	
第2講	10/11	子どもの発達【5時限に実施】	レポート
第3講	10/18	子どもの社会化	
第4講	10/25	子どもの権利	
第5講	11/1	子どもと博物館、子どもの博物館【遠隔授業】	レポート
第6講	11/8	学校と教育実践	
第7講	11/15	学力とその計測	
第8講	11/22	博物館の教育普及活動	
第9講	11/29	動物園水族館の教育活動	レポート
第10講	12/6	ボランティアとインターン	
第11講	12/13	博物館の出版物と印刷物	
第12講	12/20	農大ロビー展の見学	
第13講	1/10	平和教育と博物館	
第14講	遠隔授業	広場がつくる博物館教育【遠隔授業】	レポート
第15講	遠隔授業	技術継承と博物館【遠隔授業】	レポート

## 第1講 教育と学習の理論

### 0. 博物館概論定期試験の返却

ひとりずつ呼ぶので受け取りに来ること。待ち時間はリンク先の資料を読むなど。

- 1) 概要は定義と歴史の2つから記す。歴史だけの回答多数
- 2) 説明するには別の言葉を用いることが必要。展示なら、並べて見せる、など
- 3) 学芸員の仕事は博物館法第4条。ポイントは「博物館資料の」と限定するか否か
- 4) 空間名称、「収蔵庫」、出入口、不明な部分は作らない

### 1. 教育と学習

#### 1) 学習とは

がくしゅう【学習】「スーパー大辞林」より、以下、辞書の引用は同じ

- ① まなびおさめること。勉強すること。「新しい教科を一する」
- ② 【生】 生後の反復した経験によって、個々の個体の行動に環境に対して適応した変化が現れる過程。ヒトでは社会的生活に関与するほとんどすべての行動がこれによって習得される。
- ③ 【心】 過去の経験によって行動の仕方がある程度永続的に変容すること。新しい習慣が形成されること。
- ④ 【教】 新しい知識の獲得、感情の深化、よき習慣の形成などの目標に向かって努力を伴って展開される意識的行動。

ゾウリムシでも学習する。この場合の学習は「記憶行動」。学習は学習者が主体的におこなう。教育行為が不在でも学習は成立する。

## 2) 教育とは

きょういく【教育】 他人に対して意図的な働きかけを行うことによって、その人を望ましい方向へ変化させること。広義には、人間形成に作用するすべての精神的影響をいう。その活動が行われる場により、家庭教育・学校教育・社会教育に大別される。「子供を一する」「義務」「一のある人」

「家庭教育・学校教育・社会教育」は日本政府＝文部科学省の考え。3つを合わせて「生涯学習」となる。法制度上の話は生涯学習概論で説明する。

## 3) 「学ぶ」という言葉

「学ぶ」や「学び」という言葉は日常語ではない。学校や教育関係者が使うのみといってよい。「学ぶ」は真似る[まねる]>学ぶ[まねぶ]から派生した言葉のよう。日常語での学習行動は「習う」「知る」「真似る」、学習した結果は「できる」

「気づき」という言い方は比較的新しい。他人に「教えられた」のではなく、自ら「気づいた」という意味であるが、以前の用法では「わかった」だろう

英語で「知る」「わかる」はlearnを使う。

## 2. 教育学の実際

### 1) 対象による名称

教育学は固有の方法を持たない。心理学や歴史学（文献史学）、社会学などの方法を用いている。これは魚類学のように対象からの命名である。教科教育法などは経験知の集合といえるかも知れない。専門分野はちなみに考古学や歴史学は方法からの命名であり、古い新しいとは無関係である。平成の考古学も可能。

### 2) 主体は学校

教育を広く捉えると、芸術や技術、スポーツや特殊技能の習得までを含む。これらの実技に関するトレーニングに関しては、教育学では扱わないことが多い。これらはそれぞれの分野の専門知として継承発展されている。結局、教育学の対象は学校教育、そして児童や生徒としての子どもたち。そのなかの課題として、教育理論や思想、教育史、学校制度、教育法、教育行政、年別の授業や教科教育などを扱っている。

### 3) 教職課程の概説書から

安彦忠彦・藤井千春・田中博之編. 2020. 新版よくわかる教育学原論. ミネルヴァ書房, 京都. 255pp.

安彦忠彦・石堂常世. 2020. 最新教育原理. 勁草書房, 東京. 235pp.

目次を別資料 [kyoiku2023\\_1-2.pdf](#) に掲載。

\*日本語の書籍には末尾に書名や著者名、出版者などが記された欄（らん）がある。

これを奥付（おくづけ）といい、そのような情報を書誌（しょし）情報という。

刷（さつ、すり）は印刷の回数を表し、版（はん）は内容改訂の回数を示す。

## 2) 学術情報課程での授業内容

宇仁が担当する科目では教育関係の授業は下の様に分けている。

博物館教育論：教育の思想と理論、発達と社会化、基本的人権、学力；博物館の教育活動

生涯学習概論：教育行政、教育委員会、学校制度、教育指導要領、社会教育、多文化教育、ジェンダーギャップ



### 3. 教育方法の考え【改訂版】

#### 1) 系統主義（科学主義）と経験主義（児童中心主義、生活主義）

#### 1) 系統主義（科学主義）と経験主義（生活主義）

系統主義とは、一般的には経験主義に対する概念として、知識・理解や技能の「系統」を重視する教育の立場を意味する。すなわち、学校で教える教育内容は、科学や学問の成果であるべきだとし、それらについて段階を追って系統的に指導するという考え方。

経験主義の立場は、生活科や総合的な学習時間において、児童・生徒の発想を生かしながら、課題に対して体験的な学習を展開して、必要な事項を身に付けさせようとする考え方。

実際には、両者が一体となって教育の成果を上げていくという考え方が一般的。

小西一也（2001）戦後学習指導要領の変遷と経験主義教育 [https://www.chart.co.jp/subject/rika/scnet/11/sc11\\_6.pdf](https://www.chart.co.jp/subject/rika/scnet/11/sc11_6.pdf)

#### 2) 構成主義

学習とは学習者が主体的に「意味をつくり出していくプロセス」という考え。知識が学習者とは別に実在しているとは考えない。言い換えれば、正解を直接暗記するのではなく、学習者が正しい事柄を主体的に学びとるという考え。

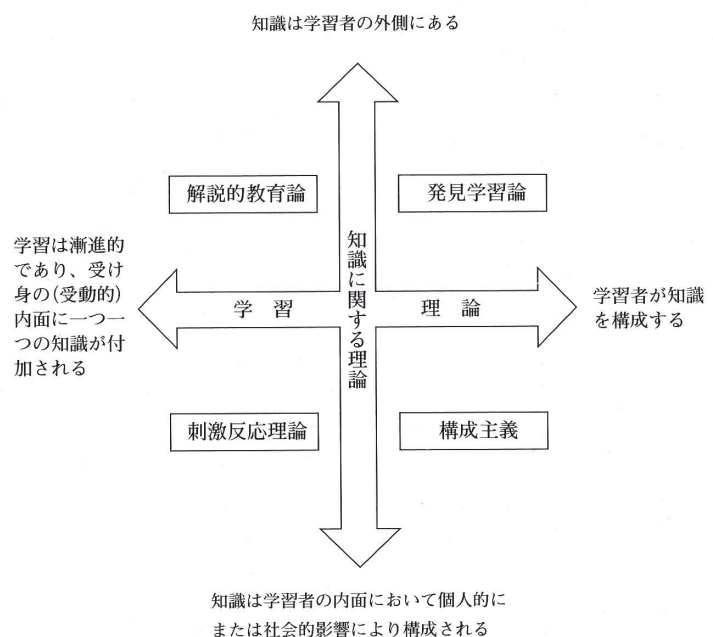
学習とは正解という客観的事実の注入という考えを「教授主義」（客観主義）といい、それに対抗する考え方。「教えるな、考えさせる」。

金子淳. 2020. 博物館展示における意図と解釈

<https://ci.nii.ac.jp/naid/120006995939/>

ハイン（2010）博物館で学ぶ（原著 Hein, G. H.

1998. Learning in the Museum）



ハイン（2010）博物館における教育理論モデル

下のウィキペディアの例はわかりやすい。

従来は単語や文法を教師が一方的に説明し、学習者はそれを理解して暗記するのが教育であったが、文法であれば構成主義の立場からは以下のような手法が採用される。

教師が特定の文型を使った文を提示する。

その中には文法的に正しいもの正しくないものが含まれている。

教師はどの文が正しく、どの文が正しくないかだけ示す。

学習者はそこから文法的に正しくなる要件を見つけ出す。

思考としては納得できるものであり、他者理解の手助けにもなる。博物館教育の関係者のなかには構成主義を過剰に主張する人たちも見られるが、構成主義は考え方のヒントとして理解しておけば十分。博物館教育の業界では形を変えつつ常に流行している。

構成主義（教育） - Wikipedia [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A7%8B%E6%88%90%E4%B8%BB%E7%BE%A9\\_\(%E6%95%99%E8%82%B2\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A7%8B%E6%88%90%E4%B8%BB%E7%BE%A9_(%E6%95%99%E8%82%B2))

### 3) 「大正新教育」

教授（＝教え込み）や訓練（＝模倣）ではなく子どもの自発性を尊重した欧米の流行を取り入れた教育実践。小  
学校で経験した下の3つもそう。

作文

自由画（写生画・想像画）

童謡 作者と作曲者が明記されている＝作品。それに対して「文部省唱歌」作者の名前は不記載

杉江淑子. 2006. 音楽教育. 滋賀大学附属図書館編. 近代日本の教科書のあゆみ. <http://hdl.handle.net/10441/411>

ビジネス雑誌ダイヤモンドオンラインの記事「身に覚えのない原風景を日本人に刷り込んだ

「文部省唱歌」はどのように生まれたのか」 <http://diamond.jp/articles/-/43823>

わらべ歌 歌い継がれてきた歌、口承〔こうしょう〕、口伝〔くでん〕 伝承、口伝え 該当する歌は今あるか？

とはいえ、「大正新教育」を無批判に持ち上げるのはどうか、願望の反映ではないかという冷静な論文

小針誠（2015）大正新教育運動のパラドックス [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jschildstudy/21/0/21\\_19/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jschildstudy/21/0/21_19/_pdf/-char/ja)

### 4. 心や精神に関する言葉の意味の違いや使い方

性【しょう】

① もって生まれたもの。生まれつきの気質・傾向・素質など。

② 物の品質・材質。人の体質。「一のよい鉄」「夏には強い一だ」

③ 魂。精神。根性。「ちつと一をつけてあげ申さう、と胴背中を一つくらはせて」〈洒落本・船頭部屋〉

④ 習性。ならい。「はづさうはづさうと思うたが一に成り」〈浄瑠璃・鎌田兵衛名所盃〉

⑤ 【仏】外部の影響や周囲との関係で変化することのない、その物自体のもっている性質。その物自体を特徴付けている不変の本質。衆生（しゅじょう）の奥に秘められている真如。衆生の本来の姿。また、それが仏性であること。→見性

気【き】

① 生まれつきもっている心の傾向。性質。性格。「一が小さい」「一のいい人」

② 物事に積極的に立ち向かう心の動き。意欲。「一がはやる」

③ 物事に引きつけられる心の動き。関心。「彼女に一がある」「一をそそる」

④ 物事に対してもつ、または物事に影響を受けて変わる感情。情緒。「一が沈む」「一が変わる」「一を楽にする」「一が滅入（めい）る」

⑤ 外界を認識し、外界と自分との関係を理解する心のはたらき。意識。「一を失う」「一を確かに持つ」「一が狂う」「一が付く」

⑥ 物事をうまく運ぶために、状況を的確にとらえる注意力。配慮。「一が回る」「一を付ける」「一を遣う」「一にとめる」「一が散る」

⑦ 物事をなしとげるために心を支え動かす力。気力。「一を挫（くじ）く」「一がゆるむ」「一は天を衝（つ）く」

⑧ ある物が含みもっていて、その物を生かしている目に見えないもの。特に、味わいや香りをいう。「一の抜けたビール」「樽（たる）に酒の一が残る」

⑨ 目には見えないが、空間に立ちこめているもの。精気。「山の一を胸いっぱい吸う」

⑩ その場に広がっている感じ。雰囲気。「会場は厳粛の一に満ちている」

⑪ (連体修飾語を受けて) これから何かをしようという気持ち。つもり。「彼を助ける一はない」「これからどうするか」「あそこから飛びおりる一だ」実際はそうでないのに、そうしたような気持ち。つもり。「死んだ一になって努力する」「天下を取った一でいる」その時々心の状態。気持ち。「ちょっといやな一がした」「さびしい一がする」

⑫ 漢方で、血(けつ)とともに体内の経絡を循環する生命力の根源とされるもの。無形であるが、有形の血と一体となって生理機能全般をつかさどるとされる。→血

⑬ 宋学で、「理」が万有を支配する原理であるのに対して、万物を形成する元素を「気」という。〔「こころ」という語が精神活動を行う本体的なものを指すのに対して、「気」はその「こころ」の状態・反応など現象的な面をいう傾向が強い。「気は心」という言葉も、表面的な「気」のはたらきは本体としての「心」の表れであるという考え方に基づく〕

## 心【こころ】

❶ 人間の体の中にあって、広く精神活動をつかさどるものになると考えられるもの。

① 人間の精神活動を知・情・意に分けた時、知を除いた情・意をつかさどる能力。喜怒哀楽・快不快・美醜・善悪などを判断し、その人の人格を決定すると考えられるもの。「一の広い人」「一の支えとなる人」「豊かな一」「一なき木石」

② 気持ち。また、その状態。感情。「重い一」「一が通じる」

③ 思慮分別。判断力。「一ある人」

④ 相手を思いやる気持ち。また、誠意。「母の一のこもった弁当」「規則一点張りで一が感じられない」

⑤ 本当の気持ち。表面には出さない思い。本心。「一からありがたいと思った」「笑っていても一では泣いていた」

⑥ 芸術的な興趣を解する感性。「絵一」

⑦ 人に背こうとする気持ち。二心。「人言(ひとごと)を繁みこちたみ逢はざりき一あるごとな思ひ我が背子」〈万葉集・538〉

❷ 物事の奥底にある事柄。

① 深く考え、味わって初めて分かる、物の本質。神髄。「茶の一」

② 事の事情。内情。わけ。「目見合はせ、笑ひなどして一知らぬ人に心得ず思はする事」〈徒然草・78〉

③ 言葉・歌・文などの意味・内容。「文字二つ落ちてあやふし、ことの一たがひてもあるかなと見えしは」〈紫式部日記〉

④ 事柄の訳・根拠などの説明。また謎(なぞ)で、答えの説明。「九月の草花とかけて、隣の踊りととく、一は、菊(聞く)ばかりだ」

以上は、デジタル大辞林より

以下は、ウィズダム英和辞典 / ウィズダム和英辞典より

## こころ 【心】

(a) mind ; (a) heart ; (a) spirit (⇒[WORD CHOICE]) ; (a) soul (!時に spirit と交換可能だが, spirit より感情・感性の深さがあり、道徳的性質を帯びる) ; 【感情】 feelings ; 【意志】 (a) will.

WORD CHOICE : 心

mind 理性に基づく合理的な精神の働きのこと. 記憶・判断・決心などを含意する.

- ▶ 落ち着いた心の状態 a peaceful state of mind.

heart 感情・感性に基づく精神の働きのこと. 愛情・同情・感動・気分などを含意する.

- ▶ 君の歌に心を打たれたよ Your song touched my heart.

spirit 肉体に対立する概念としての魂や精神の働きのこと. soulよりも意味が広く, 思想・理念・民族精神などを含意する.

- ▶ 邪悪な心 evil spirit.